

大山祇神社では、刈り取った稻の初穂を神前に供える。初穂祭(旧暦9月9日)では660年とされる歴史を持つ。和稻の精靈と人が対話しもある。奉納されると「一人翁力」(ひとりすもう)が發揮される。



乎知命(小千命)(おちみこと)は参道神武天皇の御東征に先駆け、四国に渡った。大山祇大神の子孫が自ら玄徳を祀る。貴禄ある莊嚴な姿

大山祇神社  
日本総鎮守、大山積大明神、日本全体を守りする神様として祀られている。

山の神様であるとともに海の神様として、古くから人々に厚く信仰されている。

宝物館には全国の國宝、重要文化財のうち約8割が保管されている。源義經や源賴朝など平安・鎌倉・戦国時代にかけて、大山祇神社の御神徳にあやかるために武具や甲冑などが奉納された。大三島は「國宝の島」とも呼ばれている。



瀬戸内海国立公園の素晴らしい展望を楽しむ。

古代、瀬戸内海は京の都と九州・朝鮮・大陸を結ぶ海の道であった。

天智2年(663年)、朝鮮半島白村江において日本・百濟連合軍対唐・新羅連合軍との戦争(白村江の戦い)で日本は大敗する。

その後、敵の侵攻を防ぐ重要な要の位置であり、海の道のどん中にあたる神の島、大三島が特に敵から日本を守る総鎮守として守られることがある。

山の神にして海の神、そして日本を守る神が宿る島、大三島の鷲のよう気高い神聖な山、鷲ヶ頭山がある。

古くは「神野山」と呼ばれた霊山。諸説あるが、鷲に守られた子どもが「万民の王」となったことから、鷲にも神明の法を受け伊予の國一宮の御殿前に社を建てて鷲明神として祀られた。これに由来して「鷲ヶ頭山」の山名になったと伝わる。



# 鷲ヶ頭山

しまなみ海道を渡り瀬戸内海のまん中に位置する大三島。大三島の最高峰として島のほぼ中央に位置し、古名は神ノ山または神野山といわれ、安神山とともに古くから崇拜されてきた。主に花崗岩からなり、山頂や登山道からの展望は瀬戸内海を一望できる。

大三島は何といっても大山祇神社。山の神、海の守護神、日本総鎮守の神として祀られてきた。

全国の武将がその御神徳にあやかろうと武具や甲冑などを奉納したことから国宝・重文が保存されている国宝の島である。神社のクスノキ群は日本最古の原生林社叢のクスノキ群として国の天然記念物に指定されている。

かつて大三島は全島クスノキで覆われていたが南北朝時代に兵火があり、三日三晩火焼け続け、残ったものは大山祇神社の境内にあるものだけになったといわれている。

大三島町は2005年に12市町村が合併して今治市となった。

大山祇神社は地神、海神の大巫神として日本を守護する存在である大山積大神(天照大神の兄神)が祭られ、国内唯一の「日本総鎮守」とされています。



尾根道はとても良く整備されていて、安心して歩ける。



大山祇神社は地神、海神の大巫神として日本を守護する存在である大山積大神(天照大神の兄神)が祭られ、国内唯一の「日本総鎮守」とされています。



1986年に山火事があり、やせて乾燥した山の感じだ。

木陰はほほ庵

東道横断

急坂

瀬戸内を一望

多島美をたのめる

鷲ヶ頭山

4365m

山頂に着くとちょっと笑われてしまうてきたよ

ワシガ父さん上の看板か

とてもユニーク

「ウチハ母さん」



大山祇神社にはクスノキの大木がたくさん生えている。クスノキは太陽の光を受けて葉っぱが輝く照葉樹の代表格。神話では木の神スサノオノミコトのマユモからクスノキができる船を作りたないと人間に伝えたとされている。瀬戸内海を大三島のクスノキで作られた船が行き来していたことだろう。

神社の入り口には538本が国の天然記念物に指定されている。